

氏名	三好和也
学位(専攻分野)	博士(医学)
学位授与番号	博甲第1069号
学位授与の日付	平成4年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 外科系外科学(一)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Ex vivo perfusion of canine pancreaticoduodenal allografts using class-II-specific monoclonal antibody delays the onset of acute rejection (クラスII抗原特異的なモノクロナル抗体を用いた移植片の体外灌流は、イヌ全膵十二指腸移植における急性拒絶反応の発現を遅延する)
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 中山 睿一 教授 辻 孝夫

### 学位論文内容の要旨

膵外分泌を膀胱に外瘻するイヌ全膵十二指腸移植モデルを用いて、クラスII抗原特異的なモノクロナル抗体をex vivo perfusionし、急性拒絶反応に及ぼす効果並びに少量のサイクロスポリンとの併用効果について、以下の4群において検討した。第1群(n=5); 無処置群。第2群(n=5); OKIa1 300 µg ex vivo perfusion群。第3群(n=5); サイクロスポリン2.5mg/kg/day投与群。第4群(n=5); OKIa1+サイクロスポリン投与群。移植後7日目の尿中アミラーゼ値は、第2群では、第1群に較べ有意に高く維持され(11,733±4,493vs. 3,274±2,108U/l; p<0.005)、第4群と第3群の間でも同様の有意差を認めた。移植後7日目に開腹生検して得た組織所見では、第2・4群では、第1・3群と比較して、血管内皮炎と血栓形成がほぼ完全に抑えられていた。さらに、第4群では、第2群に較べて細小血管周囲への単核球の浸潤が軽微であった。クラスII抗原特異的なモノクロナル抗体のex vivo perfusionより明らかな急性拒絶反応抑制効果を認め、少量のサイクロスポリンの併用が有用であった。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は移植免疫に関する実験的検討であるが、イヌの全脾十二指腸モデルを用いて、クラスII抗原特異的なモノクロナル抗体による移植片の体外灌流により急性拒絶反応抑制効果を認めたものであって重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。